

安政東海・南海地震による大阪市内の被害分布

東京大学名誉教授 宇佐美 龍夫*¹
大和探査技術株式会社 渡邊 健*²
東京電力株式会社 八代 和彦*³

Damage distribution in Osaka city from "ANSEI-TOUKAI-NANKAI-Earthquake"

Tatsuo Usami

1-8-1-6411, Takatuka-dai, Kawai-cho, Kita katuragi-gun, Nara, 636-0071, Japan

Takeshi Watanabe

Daiwa Exploratio & Consulting Co. Ltd., 2-8-22, Kami-Meguro, Meguro-ku, Tokyo, 153-0061

Kazuhiko Yashiro

Tokyo Electric Power Company, 1-1-3, Uchisaiwai-cho, Chiyoda-ku, Tokyo, 100-0011, Japan

§ 1. はじめに

安政東海・南海地震については、既に全国的に被害調査が行われて、その震度分布図が作成されている。しかし、大阪市内に関しては一括して大阪市内の被害・震度で表示されてきた。元来大阪市は面積も広く、地形も変化に富み、市内に上町断層のような活断層も存在するので、市内の個々の地点の被害・震度を歴史史料から推定してその分布を検討する事は都市災害の軽減に役立つと考えた。

また、大阪では津波の被害は11月5日の南海地震が圧倒的に大きかったが、大阪での地震動による被害では11月4日の東海地震による被害が意外に大きく、11月5日の南海地震と優劣を競う程度で、その決着もつけたいという目的もあった。

§ 2. 今回の調査方法

使用した史料集は、『増訂大日本地震史料』・『新収日本地震史料』・同補遺・同続補遺・『日本の歴史地震史料拾遺』、及びこれらの別巻である。これらの史料集からこの地震の被害記事を摘出してまとめた。ここで史料の信頼性を評価し、信頼性の低い史料は除外

した。

震度指示地点は、出来るかぎり史料ごとに記載されている細部の地点とした。

震度判定表は従来と同じ表1のものを使った。

史料の記事を読んでもみると、記事は、次のような3種類に分けられることがわかった。

(a) 11月4日(東海地震)の被害

(b) 11月5日(南海地震)の被害

(c) 4日か5日か不記載の被害

(a)か(b)のいずれかが明確に大きい場合には、(c)はその大きい方と同じとすることも出来るが、今回は明確に大きいものがないので、別に(c)だけを別にまとめて震度分布図を作成した。

同一地点で複数史料があり、それぞれの史料から得られた震度が異なる場合には大きい方の震度をその地点の震度とした。

§ 3. 被害記事一覧表

史料から各地点の地名と被害記事を抽出して被害記事一覧表を作成し、表1とした。この表は地名、史料名とその信頼性評価、被害記事、推定震度とかなり、被害記事は上記の(a)の場合

には左半分に記載、(b)の場合には右半分に記載、(c)の場合には左右を通して記載した。同一地点で(a)(b)両日の被害があるときは行を別にして2行とした。また同一史料で別の地点のあるときは新規の行に記載してある。11月5日の記事は一般に津波の被害記事だけが記載された史料が多いが一部には震動による被害記事が記載されていたのでそれを拾い出した。

表2~4の「文献名と評価記号」の記号は各史料の信頼性を表5の基準で評価した総合評価である。記号には○△×があるが、×の史料は使われない。どうしても○か△か決めにくい場合には◎の記号を記載している。

11月4日と11月5日のどちらの被害が大きかったかを検討するため、同一地点で(a)(b)両者が記載された被害を対称的に記載し、その間に等号または不等号を記入した一覧表を作成して表3として添付した。この表を見ると、個々の地点ではまちまちの結果であるが全体を通観すると11月5日(南海地震)の方がいくらか大きいことがわかる。

§ 4. 震度分布図

被害記事一覧表で推定した各地点の震度を現在の市内地図に震度記号を用いて記入した。これは上述の(a)(b)(c)3枚を作成したが、A1版と大きく本誌に掲載することが困難なため大阪市中央部のみを図1、図2、図3として本報告に添付した。震度記号は図4に示した。

市内地図の使用に当たっては地名辞典等で現在位置と変更はないか確認した。また地点位置が不明なものが数箇所あり、これらの地点だけを記載した被害一覧表を表4として添付してある。この表には同年6月15日の伊賀上野地震と比べたゆれの大小についての記述もまとめてある。これによると大阪では安政東南海地震の方が強くゆ

れたと考えられる。

§ 5. まとめ

推定された大阪の震度は、11月4日も5日もV~VIであって、ほぼ同様である。4日と5日とでどちらが大きいかは、僅かに5日(南海地震)の方が大きいようである。

大阪では南海地震が東海地震よりも相当に大きいという感じがあったが、三重県の沖合いで起こったらしい東海地震でもかなり大きな地震動が襲来したことが分かった。

文献

- 宇佐美龍夫・大和探査(1994)我が国の歴史地震の震度分布・等震度線図
日本電気協会
宇佐美龍夫(1996)安政江戸地震の精密震度分布
宇佐美龍夫・渡邊健(1998)信頼性評価を含めた歴史地震史料の二次調査
日本地震学会講演予稿集、1998年度秋季大会、C53

図 4


凡	例
□	IV
▣	IV~V
○	V
⊙	V以上
①	V~VI
◎	VI
立売橋	落橋
	川・堀割

表 1

震度階 (現行)	他表の 表 現	人 体 感 覚	墓石・石灯笼など	地 変
1	微地震	静止・横臥している人で特に敏感な人が感じる。		
2	小地震	屋内で静止した多くの人々が感じるが屋内でも動いている人は感じない。浅い眠りの人は眼ざめる。		
3	地 震	屋内にいるほとんどの人が感じる。屋外にいるかなりの人が感じる。歩行中の人は少数を感じる。眠っている人は目覚める・座っている人で立ち上る人もある。		
4	大地震 稀 な 大地震	歩いている人もすべて感じる。かなり多くの人が驚く。ほとんどの人が目覚め、驚いて飛びおきる人もいる。屋外に逃げ出す人もある。座っている人のうちかなりの人が立ち上る。	石灯笼のうち、不定なもの是一部倒れたりずれたりするものもある。	山地で崖崩れをまれに生ずることがある。
5	弱	ほとんどの人が物がすがりたいと感じる。ほとんどの人が驚いてとびおきる。かなり多くの人が屋外へ走り出そうとする。その場で立ちすくむ者もある。	石灯笼はかなり倒れる。墓石は回転したりずれたりし、不安定なものは倒れる。	山地や崖地などで落石を生ずることがある。傾斜地にやや大きな亀裂を生ずることがある。水田に液状化現象がおこり、噴砂・噴水を生じることがある。
	強	ほとんどの人が恐怖を感じ、あるいは目まいがする。眠っている人は一瞬何がおこったかわからず茫然とし、ふとんからズリ落ちる。直立困難となり物につかまらなると歩けない。階段をおりるのはほとんど不可能になる。物にぶつかって歩けない。かなり多くの子供が泣き騒ぐ。	ほとんど倒れる。鳥居はかなり破損する。	平らな地面にも亀裂を生ずることがある。軟弱地盤の所では陥没・地這りが生ずる。地盤によっては液状化現象がおこり、水・砂・泥を噴出する。山地では落石・山崩れが多おこる。
6		まわりの景色がぐるぐるまわるようにみえる。茫然自失の状態となり、ほとんどが生命の危険を感じる。ふとんからほうり出される。足もとがさらわれ、体が打ち倒されるようになり、立っていることができない。床が波うったようになり、つまずいて歩行不可能で這ってしか動けない。		地面に無数の亀裂が生ずる。山地では落石・山崩れがいたるところで発生する。
7				地形が変わる程の地変が生ずることがある。

震度階 (現行)	他表の 表 現	池・湖水・井戸など	家 屋 ・ 建 具
1	微地震		(東京都より震度が1位下がる)
2	小地震		戸・障子がわずかに振動する。
3	地 震	池などの水面が少しゆれる。	建物がゆれ、天井・床のきしむ音がする。戸・障子がガタガタ音をたてて振動する。壁土が落ちることがある。
4	大地震 稀 な 大地震	池などの水面がかなりゆれ、濁ることもある。井戸の水位が変化することもある。天水桶の水こぼれる。	まれに破損する家もある。壁土が少し落ちる。障子は破れることがある。
	弱	池や湖水の泥がかく乱されて水が濁る。池・川・湖が波立って岸に波のあとが残る。井戸の水位が変化することが多い。泉の湧出量が変わったり、出はじめたり、涸れたりする。	家はかなり破損し、傾くものも生じる。瓦はずれることが多く、落ちるものもある。壁土がかなり落ちる。土台のずれる家がわずかに出る。戸障子は外れ破損するものが多い。
	強	池の水が大きく溢れ出る。井戸の水位の変化が多く井戸水が涸れたり、水が出始めたりする。泉の湧出量が変わり、出始めたり、涸れたりすることが多い。	家はかなり破損し、中には倒れるものもある。土台のずれる家が多くなる。壁土はかなり多く落ちる。瓦はほとんどずれかなり落下する。かなり多くの戸・障子が外れ破損する。
6		水面に大きな波が立つ。池の水が踊って飛び出す。河川は崩壊した土砂の流入により、流水がふさがれ、湖・滝などができることがある。	土台はほとんどずれる。瓦はほとんど落下する。戸・障子はふきとぶ。
7		運河・河川・湖の水も踊って岸を超える。河川は崩壊した土砂の流入により流水がふさがれ、湖・滝などが出来ることが各所でおきる。	ほとんどの家が倒れる。

表 2

安政東南海地震による大阪市内の被害詳細

(記事が4日と5日の欄にまたがっているものは、被害がどちらの日付か確定できないもの)

1/20

地点名	現在の地名	文献名と 評価記号	4日	5日	津波被害	7日	推定 震度
天保山	港区築港一〜四	安政元高年正月よ り……御写物○	大崩れ。				V以上
毘布久	此花区	大阪府西成郡史○	仕事納屋崩れたり。				V
上ノ町	此花区	大阪府西成郡史○	橋本太七宅皆倒れ、東店の西蔵少々崩る。				V〜VI
井上家	此花区	大阪府西成郡史○	酒蔵の船場崩る。碓屋壁落ち、新場蔵過半崩る。		二 度寄せ来れり。 度目・三度目の津波 は波止場へ少し乗る		VI
荒牧屋・元店	此花区	大阪府西成郡史○	荒牧屋の樽納屋崩れ、元店北へ倒れたり。				VI
困(屋号)	此花区	大阪府西成郡史○	困(屋号にて角本と読む)の門・扉皆崩れ、大工の新助の隣皆崩る。				V〜VI
小寺店	此花区	大阪府西成郡史○	小寺店の新蔵の所崩れる。				V〜VI
安治川北式	此花区西九条一	地震海溢考 ○			崩家二軒。		-
安治川北三	此花区西九条二	地震海溢考 ○			崩家一・土蔵損一。		-
安楽寺	此花区伝法五	大阪府西成郡史○	後堂崩れる。	崩る。(二度崩れる)			VI
安楽寺	此花区伝法五	世直り艸紙 ○	大方崩れる。				V〜VI
西光寺	此花区伝法三	大阪府西成郡史○	釣鐘堂皆崩れたり。				V〜VI
鳥の宮	此花区伝法二	世直り艸紙 ○	大方崩れる。				V〜VI
正運寺	此花区伝法六	大阪府西成郡史○	大方崩れる。				V〜VI
正運寺	此花区伝法六	世直り艸紙 ○	大方崩れる。				V
住吉	住吉区住吉二	文鳳堂雜纂 ○					V
住吉社	住吉区住吉二	勤修寺蹟彰日記○	海辺二有之石灯籠二十九基計打倒候へしも社頭向其外神木等二八御指所且不審之儀も無之旨也。	石とうろう八分たをれる、未社大損し。			V
住吉神社	住吉区住吉二	大地震大津浪未代囃遊種 ○	石灯籠七八分通り倒る。未社少しづつ、損じ、本社別条なし。				V
シラカ町観音	西区	地震海溢記 ○	観音前縁香立崩れ、其外大損。				V
志々か町くわん音	西区	文鳳堂雜纂 ○	釣鐘落ル。(しらか?)				VI
志々か町くわん音	西区	文鳳堂雜纂 ○	崩家あり。(しらか?)				V
白髪町観音	西区	安政元高年正月よ り……御写物○	観音前縁香台崩れ。				IV〜V
白髪町観世音堂	西区	大日記 ○	釣鐘落ちる。				VI
紙屋	西区	嘉永甲寅諸国地震 記 ○	…市中并蔵建家、所々崩れ申候。私方近所には願教寺様対面所崩れ、其外建家数多崩れ申候得共、下店には無難に御座候。				V〜VI
豊島町通中橋筋	西区阿波盛二	藤岡屋日記 ○	北南両側潰家拾四・五軒。				VI

地点名	現在の地名	文献名と 評価記号	4日	5日	7日	推定 震度
四郎兵衛町	西区阿波座一	永書 ○	御抱屋敷に破損所出来。			IV~V
阿わ座戸町	西区阿波座一	文鳳堂雜纂 ○		近辺凡百軒計り崩れ損ず。(戸屋町?)		VI
阿波座戸屋町	西区阿波座一	大地震大津浪未代囃廻種 ○	小間ものだな西角大ゆがみ、夫より少し西北側の人家七八けん大くつれ、夫より半丁西の角やしき向かは家廿五軒大くつれ、夫より少し西北角人家十軒ばかり崩			VI
阿波座戸屋町	西区阿波座一	安政元寅年正月よ り……御写物 ○	西行当り、此の辺崩れ多し。			V~VI
あわ座戸屋町 阿波町	西区阿波座一~二	大坂編年史廿二〇 (近來年代記五)	大ニ崩し家多し。又ゆがみし家数多し。			V~VI
奈良屋ばし筋おく ひ町	西区阿波座一	大地震大津浪未代囃廻種 ○	角の人家倒れかけ住居ならず。			V
安治川三丁目	西区安治川一	大地震大津浪未代囃廻種 ○	人家十二三軒ばかり崩る。			V~VI
安治川南式	西区安治川一	地震海溢考 ○				-
国津橋西	西区安治川一	安政元寅年正月よ り……御写物 ○	一ヶ所崩れ。		崩家二ヶ所。	V
安治川南三	西区安治川二	地震海溢考 ○			損し家三・土蔵一。	-
安治川南四	西区安治川二	地震海溢考 ○			崩家四ヶ所。	-
羽子板ばし	西区京町堀一	大地震大津浪未代囃廻種 ○	北詰西角浜がは人家三けんくつれ…			V
羽子板橋	西区京町堀一	地震海溢記 ○	北詰崩候。			V
新中橋筋	西区京町堀一	大地震大津浪未代囃廻種 ○	北の角崩る。			V
京町堀はこ板橋	西区京町堀一	文鳳堂雜纂 ○	北つめ、崩家あり。			V
はこ板橋	西区京町堀一	安政元寅年正月よ り……御写物 ○	北詰角損。			V
江戸堀糴屋町	西区京町堀一	藤岡屋日記 ○	南西筋角引廻し潰家七軒程。			V~VI
紀伊国ばし	西区京町堀二	大地震大津浪未代囃廻種 ○	南詰西へ入真長屋二三けん大崩れ。			V
坂本町	西区京町堀二	文鳳堂雜纂 ○	崩家あり。			V
江戸堀二 高津屋	西区江戸堀一	西区史 ○	家井土蔵・高塚大損			V以上
青藤町	西区江戸堀一	永書 ○	御抱屋敷に破損所出来。			IV~V
北江戸ばり壹丁目	西区江戸堀一	大地震大津浪未代囃廻種 ○	高塚十間計崩る。			V
北江戸堀老町目	西区江戸堀一	安政元寅年正月よ り……御写物 ○	高塚十間計崩れ。			V
犬窩橋	西区江戸堀一	大地震大津浪未代囃廻種 ○	人家四五軒崩る。			V
犬をい橋 (さ?)	西区江戸堀一	安政元寅年正月よ り……御写物 ○	東江入土蔵崩れ。			V~VI

(記事が4日と5日の欄にまたがっているものは、被害がどちらの日付か確定できないもの)

安政東南海地震による大阪市内の被害詳細

地点名	現在の地名	文献名と 評価記号	4 日		5 日		7 日	推定 震度
			文	地	津	波		
阿こくばし筋籠屋 町	西区江戸堀一	大地震大津浪未代断廻種 ⊙	西南角間十六間ばかり崩れ… (阿国橋は新中橋の間違いか?)					V
北江戸堀富屋増蔵	西区江戸堀一～二	稲束家日記 ⊙	七間～九間土蔵倒伏候趣、四、五日両度の地震にて凡家土蔵さつと噂にては州ヶ所も損候趣					VI
雑破場石津町	西区江戸堀三	藤岡屋日記 ⊙	潰家三十軒。					VI
道空町阿国橋	西区江戸堀二	大日記 ⊙	土手崩崩。					V以上
道空町阿こくばし	西区江戸堀二	文鳳堂雑纂 ⊙	東、崩家あり。					V
坂本社	西区江戸堀二	安政元寅年正月よ り……御写物 ⊙	崩れ。下絵馬堂其外五六ヶ所崩れ。					V～VI
高錦藩屋敷	西区江戸堀二?	宮崎県史料三 ⊙	御屋敷御殿向盛桶井御蔵等痛、御貸屋大破。					V
さこ場石津町	西区江戸堀三	大地震大津浪未代断廻種 ⊙	角崩る。					V
さこ場石津町南	西区江戸堀三	安政元寅年正月よ り……御写物 ⊙	崩れ。					V
新町東	西区新町一	大地震大津浪未代断廻種 ⊙	扇屋のさしき崩る。その近辺損じ多し。					V
新町	西区新町一	嘉永甲寅地震雑記 ⊙	東の扇屋式拾置の四本はしらの座敷大崩					V
新町	西区新町一	文鳳堂雑纂 ⊙	扇屋座敷崩れ損ず。					V
新町問屋橋	西区新町三	大地震大津浪未代断廻種 ⊙	角の人家七八軒大損じ。					V
高橋(長堀川)	西区新町四	嘉永甲寅諸国地震 記 ⊙						-
玉造橋(新玉造)	西区新町四	永書 ⊙						-
阿波座岡崎ばし	西区西本町二	大地震大津浪未代断廻種 ⊙	南詰半丁東へ入所の人家五六軒くづれる。					V
亀井橋	西区川口一	地震海溢記 ⊙	土蔵川中へ崩込。					V～VI
亀井橋(戎島)	西区川口一	嘉永甲寅諸国地震 記 ⊙						-
前タレ島 寺島 富島 戎島	西区千代崎一～三 西区川口一～四 西区川口一	地震海溢記 ⊙	此辺大崩。					V
前垂島 戎島 富島 寺島	西区川口一 西区川口一～四 西区千代崎一～三 西区川口一	大地震大津浪未代断廻種 ⊙	人家五六軒大崩れ。					V～VI
御舟手屋敷?近辺	西区川口一?	藤岡屋日記 ⊙	近辺の町家三尺程地中江露込、阿隣浪、其外御番所向下家落、石灯籠鳥居杯不残倒れ…					V～VI
御舟手屋敷?	西区川口一?	藤岡屋日記 ⊙	…当役所にては御殿向大破、台所棟梁落、小屋部屋潰、土蔵電ヶ所潰、電ツは半潰。					V～VI
秋澤屋敷	西区川口三	御寄 ⊙	御殿其外御蔵・諸御屋・御貸屋・富嶋御蔵御貸家共多分之及破損、片時も難捨置分も御座 候、追々助柱杯にて夫々手入仕置候。					V～VI

(記事が4日と5日の欄にまたがっているものは、被害がどちらの日付か確定できないもの)

安政東南海地震による大阪市内の被害詳細

地名	現在の地名	文献名と 評価記号	4日	5日		7日	推定 震度
				地	津波被害		
富嶋式丁目	西区川口三・四	地震海溢考 ○			津波被害 損し家一・土蔵二。 落ちる。		-
国つはし(国津)	西区川口四	文鳳堂雜纂 ○					-
国津橋	西区川口四	大地震大津浪未代囃酒種	東西軒つづつ崩。				V
国津橋東	西区川口四	安政元真年正月より……御写物 ○	一角所崩れ。				V
天神御たび所	西区川口一	文鳳堂雜纂 ○	鳥居崩る。				V~VI
天神御旅所	西区川口二	藤岡屋日記 ○					-
江戸堀けん才ばし	西区土佐堀一	文鳳堂雜纂 ○	崩家あり。(大駕橋)				V
江戸堀けん才橋	西区土佐堀一	文鳳堂雜纂 ○	北つか一軒崩。(大駕橋)				V
常安橋	西区土佐堀一	安政元真年正月より……御写物 ○	南角崩れ。				V
常安橋	西区土佐堀二	大地震大津浪未代囃酒種	南詰西角の人家往来へ倒る。				V
釜屋町	西区南堀江一	地震海溢考 ○			崩家八軒。		-
新難波上之町	西区南堀江一	地震海溢考 ○			崩家十軒。		-
新難波中之町	西区南堀江一・二	地震海溢考 ○			崩家七軒。		-
新難波西之町	西区南堀江三	地震海溢考 ○			崩家七軒。		-
橋通り三丁目	西区南堀江二・三	嘉永甲寅地震雜記 ○	凡半丁はかり大損し。此近へん浜すじ新建の 威少し損し。				V
堀江橋通三丁目	西区南堀江三	大地震大津浪未代囃酒種	人家半丁ばかり大損し、この近辺人家土蔵そんじ所々有之。				V
日吉橋・唐金橋・幸橋・住吉橋	西区南堀江一〜四	嘉永甲寅諸国地震記 ○			…木津川口には北国の田船、大津波にて川下より川上に流れ来り、不残道頓堀中へ流れ込み、左記の橋々落ちる。 大浪二而左記の橋々打崩し馳通し、大黒橋二而喰留申候。帆柱船先杯二而阿川岸土蔵建家二階或は庇等も崩…		-
日吉橋・沙見橋・幸橋・住吉橋	西区南堀江四	大地震災録 ○					-
水分橋・黒金橋(堀江川)	西区南堀江四	嘉永甲寅諸国地震記 ○			落ちる。		-
新戎町	西区南堀江四	地震海溢考 ○			崩家五軒・土蔵損三		-
松本町	西区南堀江四	地震海溢考 ○			崩家二軒。		-

(記事が4日と5日の欄にまたがっているものは、被害がどちらの日付か確定できないもの)

安政東南海地震による大阪市内の被害詳細

地名	現在の地名	文献名と 評価記号	4日	5日		7日	推定 震度
				被害	被害		
下博芳町	西区南堀江四	地震海溢考 ○			津波被害		
南堀江四丁目亀橋	西区南堀江四	安政元寅年正月よ り……御写物 ○	西之辻角崩れ。		崩家一軒・土蔵損一		-
新大黒町	西区南堀江四	地震海溢考 ○			崩家五軒・土蔵損三		V
伏見屋四郎兵衛町	西区南堀江四	地震海溢考 ○			土蔵損一ヶ所。		-
南堀江五丁目	西区南堀江四	地震海溢考 ○			崩家一軒。		-
徳寿町	西区南堀江二・三	地震海溢考 ○			崩家二軒・土蔵損二		-
御池橋	西区北堀江一	大地震大津浪未代断廻種 ○	西詰裏の高堀くづれ落ちる				V
四ツはし南詰	西区北堀江一	嘉永甲寅地震雑記 ○	東角蔵少しそんし。				IV~V
御池通り五丁目	西区北堀江三	嘉永甲寅地震雑記 ○	南東角四けん計崩。				V
あみだ池	西区北堀江三	文鳳堂雜纂 ○	うら門西の辻、崩家あり。				V
阿弥陀池南川通	西区北堀江三	藤岡屋日記 ○	亀橋近所は潰家五軒。				V~VI
堀江あみだ池	西区北堀江三	大地震大津浪未代断廻種 ○	裏門筋の辻南東角高堀四間ばかり崩る。				V
堀江阿弥池	西区北堀江三	安政元寅年正月よ り……御写物 ○	裏門西之辻崩れ。				V
白髪町くはんおん 横町	西区北堀江三	大地震大津浪未代断廻種 ○	高へい崩る。				V
土佐藩屋敷	西区北堀江四	嘉永甲寅年大地震 雑記 ○	御屋敷内も一時二相崩し可申ニ御座候処、漸 相静り…				-
土佐屋敷	西区北堀江四	嘉永甲寅地震雑記 ○	堀三間計崩損し。				IV~V
堀江土佐御やしき	西区北堀江四	大地震大津浪未代断廻種 ○	堀三間計損じ。				IV~V
土佐守様御屋敷	西区北堀江四	文鳳堂雜纂 ○	崩家あり。				V
堀江かめ橋	西区北堀江四	文鳳堂雜纂 ○	西の辻角崩。				V
西浜町	西区北堀江四	地震海溢考 ○			崩家一軒。		-
堀江橋通いなり御 旅所	西区北堀江四?	大地震大津浪未代断廻種 ○	境内神楽所角力場大損じ、座敷崩るゝ。				V
ほり江いなり社	西区北堀江四?	嘉永甲寅地震雑記 ○	おたひ地内神楽所・相撲場大そんし。				V
木津川町	西区本田一	地震海溢考 ○			崩家一ヶ所。		-
竹林寺	西区本田一	知恩院 日鑑 ○	本堂大破。				V~VI
願教寺	西区立売堀四	大地震大津浪未代断廻種 ○	裏手の長屋二十軒ばかり崩る。				V~VI
くわんざんや寺	西区立売堀四	文鳳堂雜纂 ○	前、崩れ損ず。(願教寺?)				V

(記事が4日と5日の欄にまたがっているものは、被害がどちらの日付か確定できないもの)

安政東南海地震による大阪市内の被害詳細

地名	現在の地名	文献名と 評価記号	4日	5日		7日	推定 震度
				被害	被害		
くわん行寺 願教寺 (広教)	西区立売堀四	文鳳堂雜纂 ○ 安政元寅年正月よ り……御写物 ○	裏門七軒崩。(願教寺?) 前の建家拾四五軒、尤古家に候得共倒家・怪 我入御座候由。				V
願教寺門前一筋東 薩摩堀願教寺 (広教)	西区立売堀四	藤岡屋日記 ○ 安政元寅年正月よ り……御写物 ○	角道家拾七軒。 対面所崩れ。				V~VI
薩摩堀願教寺	西区立売堀四	仮題 書状集 ○	御対面所崩し。	御対面所も潰申候			V
薩摩堀御堂 (願教寺?)	西区立売堀四	地震海溢記 ○	御対面所崩し。				V
川西願教寺	西区立売堀四	大地震大津浪末代嘯廻種 ○	対面所大くづれ、前すじ北へ入練堀大ゆがみ。				V
立うり堀中橋	西区立売堀二・三	文鳳堂雜纂 ○	同角崩。				V
せと物町	西区鞆本町一	文鳳堂雜纂 ○		崩れ損ず。			V
永代口 (浜?)	西区鞆本町二	安政元寅年正月よ り……御写物 ○	大土蔵崩れ。				VI
永代浜	西区鞆本町二	大地震大津浪末代嘯廻種 ○	大土蔵崩れる。				VI
永代浜	西区鞆本町二	文鳳堂雜纂 ○	土蔵崩るゝ。				VI
紀ノ国橋南へ二丁	西区鞆本町一	地震海溢記 ○	角家大崩。				V
紀伊国ばし	西区鞆本町二	大地震大津浪末代嘯廻種 ○	南詰西へ入所両三軒大崩れ。				V
天下茶屋	西成区岸里東一	大地震大津浪末代嘯廻種 ○	崩れる。				V
天下茶屋	西成区天下茶屋	地震海溢記 ○	崩崩、其外家大損。				V
稗鳴村	西淀川区姫島一~六	大地震大津浪末代嘯廻種 ○	大ゆりにて家三四分通り倒れる。				VI
三軒家	大正区三軒家西	地震海溢考 ○				崩家五ヶ所。	-
難波島中口新田	大正区三軒家東	地震海溢考 ○				崩家式ヶ所。	-
千嶋新田	大正区千島	地震海溢考 ○				崩家式ヶ所。	-

(記事が4日と5日の欄にまたがっているものは、被害がどちらの日付か確定できないもの)

安政東南海地震による大阪市内の被害詳細

地名	現在の地名	文献名と 評価記号	4日		5日		7日	推定 震度
			被害	被害	被害	被害		
玉造り近辺	中央区	文鳳堂雑纂 ○						V
道頓堀	中央区	虫倉後記 ○	所々の神仏致参詣俣処、百度場或は手洗場屋敷石の鳥居類等新古に不构重きは皆浪、諸家方御屋敷も大破沢山相見候。当御用場の向五つ蔵も大破にて倒懸り…					V~VI
本町南の辻	中央区	大地震大津浪未代囃廻種 ⊕	角より北へ七八軒大さんじ。					V
浄久寺	中央区	大坂編年史廿二〇 (近來年代記五)	崩れる。					V
本町浄久寺	中央区	文鳳堂雑纂 ○	崩家あり。					V
東西の御坊	中央区	青窓紀聞六十四〇	石之鳥居落ちる。					V~VI
本町狐小路	中央区	大地震大津浪未代囃廻種 ⊕	寺の高崩れる。					V
高原牢屋敷	中央区谷町六?	大地震大津浪未代囃廻種 ⊕	前の家一軒崩る。					V
高原蟻(牢?)屋	中央区谷町六?	文鳳堂雑纂 ○						V
高者牢屋敷前	中央区谷町六?	文鳳堂雑纂 ○	一軒崩。(高原?)					V
重藤寺	中央区谷町九	知恩院 日鑑 ○	極大破。					V
北久太郎町井池	中央区久太郎町三	大地震大津浪未代囃廻種 ⊕	北へ入所西側家二軒崩る。					V
北久太郎町井池	中央区久太郎町三	大坂編年史廿二〇 (近來年代記五)	北へ入所四五軒崩れる。					V
北久太郎町どぶ池	中央区久太郎町三	文鳳堂雑纂 ○	北入 三軒崩。					V
北久太郎町当地 (井池?)	中央区久太郎町三	安政元寅年正月より……御写物 ○	北江入西側東三軒崩れ。					V
座摩	中央区久太郎町四	地震海溢記 ○	絵馬堂大崩。					V
座摩の社	中央区久太郎町四	文鳳堂雑纂 ○	鳥居崩る。					V~VI
座摩宮	中央区久太郎町四	大地震大津浪未代囃廻種 ⊕	鳥居・門・石とろうろ・絵馬堂崩る。					V~VI
座摩宮	中央区久太郎町四	大坂編年史廿二〇 (近來年代記五)	石の鳥居・絵馬堂崩れる。					V~VI
座摩宮	中央区久太郎町四	安政元寅年正月より……御写物 ○	石鳥居崩れ落ちる。					V~VI
座摩社	中央区久太郎町四	世直り舛紙 ○	表門石の鳥居折れる。社の絵馬堂・石とろう多く損ず。					V~VI
座摩社	中央区久太郎町四	藤岡屋日記 ○	鳥居倒れ。					V~VI
座摩社	中央区久太郎町四	地震海溢記 ○	鳥井崩申候。					V~VI
座摩之宮	中央区久太郎町四	青窓紀聞六十四〇	石之鳥居落ちる。					V~VI
座摩社	中央区久太郎町四	文鳳堂雑纂 ○						V
東本願寺	中央区久太郎町四	地震海溢記 ○	御堂・御殿向破損。					V

安政東南海地震による大阪市内の被害詳細 (記事が4日と5日の欄にまたがっているものは、被害がどちらの日付が確定できないもの)

地点名	現在の地名	文献名と 評価記号	4 日		5 日		7 日	推定 震度
			被害	被害	被害	被害		
南御堂	中央区久太郎町四	大地震大津浪未代囃子種	○	北西手の塀少しくそんじ、南の門大ゆがみ、井戸やかた崩る。				V
玉造式軒茶屋	中央区玉造一・二	嘉永甲寅地震雑記	○	新宅人家凡拾軒はかり大損し				V
玉造二軒茶屋	中央区玉造一～二	大地震大津浪未代囃子種	○	一丁計東の人家大くづれ、その近辺東西南北損じ数しらす。				V
玉造りいなり	中央区玉造二	文鳳堂雜纂	○	大そんじ。				V
高津志正院	中央区高津一	地震海溢記	○	高胡崩。(自性院?)				V
高津志正院	中央区高津一	安政元寅年正月よ り……御写物	○	高胡崩。(自性院?)				V
高津慈照院	中央区高津一	大地震大津浪未代囃子種	○	高へい大そんじ。(自性院?)				V
高津橋	中央区高津三	大地震大津浪未代囃子種	○	南へ入所納屋十軒計大崩れ。				V
高津橋南二入	中央区高津三	地震海溢記	○	ニカハヤ納家十軒計大崩。				V
道頓ぼり	中央区宗右衛門町	大地震大津浪未代囃子種	○	芝居小屋少々づつゝの損じあり。				IV～V
白雲寺	中央区上本町西四	知恩院 日鑑	○	極大破。				V
金屋橋	中央区西心齋橋	嘉永甲寅諸国地震記	○					-
なんは新地	中央区千日前一	嘉永甲寅地震雑記	○	みその川にしうら家四五軒大そんじ。				V
大坂城	中央区大坂城	嘉永七寅年地震記	○					V以上
大坂城	中央区大坂城	片葉雜記	○	御城所々地破れ、追手御番所くづるゝ。				V
大坂城	中央区大坂城	藤岡屋日記	○	御城内外御役宅向々御別条無御座候、尤破損并倒れ懸りは不少由に御座候。				V
大坂城	中央区大坂城	嘉永甲寅諸国地震 記	○					IV～V
大坂城	中央区大坂城	丸山利隆日記	○					V～VI
大坂城	中央区大坂城	嘉永雜記	○	御本丸四方之御櫓并御土居震動いたし、白壁何れもひびきわれ、石垣等も所々損シ、御本丸内銀水之屋根柱等も倒れ、御威代御構内口口之御門と申御門・屋根十間余も損シ…				V
大坂城	中央区大坂城	嘉永雜記	○					V
玉造御蔵	中央区大坂城	丸山利隆日記	○					VI

安政東南海地震による大阪市内の被害詳細 (記事が4日と5日の欄にまたがっているものは、被害がどちらの日付が確定できないもの)

地点名	現在の地名	文献名と 評価記号	4日	5日		7日	推定 震度
				地 震 被 害	津 波 被 害		
あわら町	中央区淡路町一	文鳳堂雑纂 ○	土蔵崩るゝ。				VI
淡路町	中央区淡路町二	大地震大津浪末代囃廻種	西の土蔵くつれる。				VI
淡路町西	中央区淡路町一～ 四	安政元寅年正月よ り……御写物 ○	土蔵崩れ。				VI
淡路町西	中央区淡路町四	地震海溢記 ○	土蔵崩。				VI
御霊の社	中央区淡路町四	文鳳堂雑纂 ○	崩家あり。				V
御霊社	中央区淡路町四	安政元寅年正月よ り……御写物 ○	井戸家形崩れ。				V
御霊社	中央区淡路町四	大地震大津浪末代囃廻種	井戸屋かた崩る。				V
御霊社	中央区淡路町四	世直り舛紙 ○	手水鉢屋駄たをれる。				V
大雲寺	中央区中寺一	知恩院 日鑑 ○	極大破。				V
雲雷寺	中央区中寺町一	地震海溢記 ○	本堂ユカム。				V～VI
道修町せんたんの 木	中央区道修町二・ 三	安政元寅年正月よ り……御写物 ○	高崩崩れ。				V
道修町せんたんの 木筋	中央区道修町二・ 三	大地震大津浪末代囃廻種	高崩十間ばかり崩る。				V
いなりの社	中央区南久宝寺町四	文鳳堂雑纂 ○		石ノ灯笼崩レ…			V
船場福荷	中央区南久宝寺町 四	地震海溢記 ○					V
船場福荷	中央区南久宝寺町 四	安政元寅年正月よ り……御写物 ○		西鳥居損シ。			V
博労町	中央区南久宝寺町 四	大地震大津浪末代囃廻種		いなりの鳥居大ゆがみ、石灯笼倒れる。			V～VI
博労町稲荷之宮	中央区南久宝寺町 四	青窓紀聞六十四 ○	鳥居ゆかミ、石灯笼粉の如くニ相成候由				V～VI
長はりさのや橋	中央区南船場四	大地震大津浪末代囃廻種	北詰の裏長屋七八軒大崩れ。				V
安堂寺町	中央区南船場一	安政元寅年正月よ り……御写物 ○	西の堀倒れる。				V
順慶町	中央区南船場一他	文鳳堂雑纂 ○	二軒崩。				V
順慶町井池	中央区南船場三	大地震大津浪末代囃廻種	東南角人家二軒大損じ。				IV～V
佐野屋橋筋塩町	中央区南船場四	安政元寅年正月よ り……御写物 ○	北江入高崩崩れ。				V
佐野屋橋筋塩町	中央区南船場四	藤岡屋日記 ○	北江入東側は浪家七軒。				V～VI

安政東南海地震による大阪市内の被害詳細

(記事が4日と5日の欄にまたがっているものは、被害がどちらの日付か確定できないもの)

10/20

地点名	現在の地名	文献名と 評価記号	4日	5日		7日	推定 震度
				被害	津波被害		
塩町佐の屋橋筋	中央区南船場四	大坂編年史廿二〇 (近來年代記五)	崩こける。				V
鹽町さのや橋筋	中央区南船場四	大地震大津浪未代囃廻種	角より北へ半町ばかり壹丈余の高瑞西手へくつれ落ち…				V
鹽町さのやはし角	中央区南船場四	世直り舛紙	たばこ間屋、大壁の崩れる				V
南本町心さい橋筋	中央区南本町三	大地震大津浪未代囃廻種	東へ入北がわ人家巷軒大そんじ。				V
高津新地	中央区日本橋一	文鳳堂雜纂	土蔵崩るゝ。				VI
長町	中央区日本橋一	大地震大津浪未代囃廻種	裏の信家損し家数知らず。				V
北浜	中央区北浜	青窓紀聞六十四〇	諸蔵屋敷は皆々殊之外なるアレニ御座候				V~VI
近江や栄三郎	中央区北浜四	速見家日記	五ツ過時大地震ニ而夏よ口余程長くノ故大いに配仕、其の夕方ニも劇く… (被害記事の記載なし)				-
本町	中央区本町一~四	文鳳堂雜纂					V
本町心森橋筋	中央区本町三	大地震大津浪未代囃廻種	東へ入うら長や惣くつれ。				V
本町心森橋	中央区本町三	安政元高年正月より…御写物	東江入裏長屋崩れ。				V
狐小じ本町とふ池	中央区本町三	安政元高年正月より…御写物	南東角屋敷崩れ。				V
本町心森橋東へ入	中央区本町三	地震海溢記	裏長屋崩。				V
本町心才橋	中央区本町三・四	文鳳堂雜纂	裏、崩家五軒。				V
北御堂	中央区本町四	續地震雜纂(上)	北御堂近辺歩行仕居候所、暫時之間は往来出来兼候位(中略)少々ずつ破損所御座候。破損所(多分破損は古き家に御座候)三四ヶ所は、私共見請申候。				IV~V
北の御堂	中央区本町四	大坂編年史廿二〇 (近來年代記五)	本堂後手のかべ落ちし故、御本尊・御眞影対面所へ御うつり有也。				V
西本願寺	中央区本町四	地震海溢記	御堂・御殿向破損。				V
寺町	天王寺区	大地震大津浪未代囃廻種	寺々の墓所の石碑八九分こける。				V
寺町通	天王寺区	大地震大津浪未代囃廻種	寺々少々つゝいたむ。				IV~V
安居天神	天王寺区逢坂一	大坂以西大地震報告書	倒る。				VI
一心寺	天王寺区逢坂二	地震海溢記	ネリ崩崩し…				V
玉造観音寺	天王寺区船差町?	大地震大津浪未代囃廻種	本堂倒る。(院?)				VI
下寺町	天王寺区下寺町	青窓紀聞六十四〇	本堂ゆりくずし、門々打倒れ数知らず。				VI

安政東南海地震による大阪市内の被害詳細

(記事が4日と5日の欄にまたがっているものは、被害がどちらの日付か確定できないもの)

11/20

地点名	現在の地名	文献名と 評価記号	4日		5日		7日	推定 震度
			日	被害	日	津波被害		
大蓮寺	天王寺区下寺町一	知恩院 日鑑 ○ 極大破。						V
下寺町大蓮寺	天王寺区下寺町一	嘉永甲寅地震雑記 ○ 表の扉ゆかみ損し。						IV
下寺町大蓮寺	天王寺区下寺町一	大地震大津浪末代断絶種 ㊦ 高崩崩れ本堂庫裏少々の破損あり。						V
浄国寺	天王寺区下寺町一	世直り仲紙 ○ 本堂崩るゝ。						VI
浄こくし(浄国寺)	天王寺区下寺町一	文鳳堂雑纂 ○ 門崩るゝ。						V
寺町浄国寺	天王寺区下寺町一	安政元寅年正月より……御写物 ○ 損。						IV~V
浄国寺	天王寺区下寺町一	知恩院 日鑑 ○ 極大破。						V
下寺町浄国寺	天王寺区下寺町一	文鳳堂雑纂 ○ 本堂崩れず。						VI
下寺町綿国寺(浄?)	天王寺区下寺町一	大坂編年史廿二〇(近來年代記五)						VI
浄国寺	天王寺区下寺町一	大地震大津浪末代断絶種 ㊦ 本堂崩る。						VI
下寺町源正寺	天王寺区下寺町一	地震海溢記 ○ 門大損。(源聖?)						V
源正(聖?)寺	天王寺区下寺町一	大地震大津浪末代断絶種 ㊦ 門損じ。						V
源正(聖?)寺	天王寺区下寺町一	文鳳堂雑纂 ○ 門崩るゝ。						V
源聖寺	天王寺区下寺町一	知恩院 日鑑 ○ 極大破。						V
源正寺(聖?)	天王寺区下寺町一	安政元寅年正月より……御写物 ○ 門損。						V
正覚寺	天王寺区下寺町二	大地震大津浪末代断絶種 ㊦ 境内金毘羅の社絵馬堂くづる。						V
四天王寺	天王寺区四天王寺一	仮題 書状集 ○ 鼓楼并亀井之堂倒、秋之坊之大書院倒。						V~VI
天王寺	天王寺区四天王寺一	大地震大津浪末代断絶種 ㊦ 大鼓堂くづれ、亀井の水の屋かた崩る。其れ境内の諸堂悉く大そんじ、五重の塔も少しかたぶく。						V~VI
天王寺	天王寺区四天王寺一	文鳳堂雑纂 ○ しゅう堂たをれ所々大そんじ。(鐘楼?)						V~VI
四天王寺	天王寺区四天王寺一	地震海溢記 ○ 太子(太鼓?)堂崩、鐘楼堂、コッ堂、前花立石、其れ諸堂大損、五重ノ塔三重日東ヘリ屋根損シオチ、南東ヘユカミ…						V~VI
天王寺	天王寺区四天王寺一	青悉紀聞六十四〇 講堂痛ミ、太鼓堂・亀井の水倒れる。						V
天王寺	天王寺区四天王寺一	世直り仲紙 ○ 引導鐘并骨堂石とろう多く損ず。						V
四天王寺	天王寺区四天王寺一	安政元寅年正月より……御写物 ○ 崩れ。						V~VI
天王寺	天王寺区四天王寺一	大坂編年史廿二〇(近來年代記五)						V
蓮生寺	天王寺区城南寺町	知恩院 日鑑 ○ 極大破。						V

安政東南海地震による大阪市内の被害詳細 (記事が4日と5日の欄にまたがっているものは、被害がどちらの日が確定できないもの)

地点名	現在の地名	文献名と 評価記号	4日	5日		7日	推定 震度
				被害	被害		
生玉寺町	天王寺区生玉寺町	文鳳堂雜纂 ○		地	津波被害		VI
大乗寺	天王寺区生玉寺町	知恩院 日鑑 ○	極大破。	本堂たをれる。			V
宝国寺	天王寺区生玉寺町	知恩院 日鑑 ○	極大破。				V
生玉神主屋敷	天王寺区生玉町	大地震大津浪末代囃廻種 ⊕	少々そんじあり。				IV~V
生玉社	天王寺区生玉町	大地震大津浪末代囃廻種 ⊕	鳥居こける。				V~VI
生玉	天王寺区生玉町	地震海溢記 ○	鳥居コケ、神主家敷少々ツ>損、此近辺大損。				V~VI
天王寺町金ひら	天王寺区生玉町	文鳳堂雜纂 ○	崩家あり。				V
浮心瀨 遊行寺 しょまん(勝鬘院)	天王寺区俗人町 " 下寺町二 " 夕陽ヶ丘	大地震大津浪末代囃廻種 ⊕	近辺大いたみ住居ならず。				V
清水寺	天王寺区俗人町	世直り艸紙 ○	ぶたい崩る。				V~VI
清水寺	天王寺区俗人町	安政元高年正月よ り……御写物 ○	舞台崩れ、本堂脚も不損。				V~VI
清水寺	天王寺区俗人町	仮題 書状集	舞台崩落申候。				V~VI
清水寺	天王寺区俗人町	青悉紀聞六十四〇	舞台落ちる。				V~VI
清水	天王寺区俗人町	大地震大津浪末代囃廻種 ⊕	ぶたい西へくづれ落ちる。本堂別条なし。				V~VI
清水	天王寺区俗人町	文鳳堂雜纂 ○	舞台落ル。				V~VI
清水	天王寺区俗人町	大坂編年史廿二〇 (近來年代記五)	ぶたい崩れる。				V~VI
北福島一体	福島区	文鳳堂雜纂 ○	大崩れ。				V
福島	福島区	大地震大津浪末代囃廻種 ⊕	人家大体一町二付七八軒つつ崩れ候也				V~VI
安治川橋	福島区	續地震雜纂 (上) △					-
五百羅漢	福島区福島五	世直り艸紙 ○	破損。				V
羅漢	福島区福島五	安政元高年正月よ り……御写物 ○	本堂・小門崩れ。				VI
五百羅漢堂	福島区福島五	大地震大津浪末代囃廻種 ⊕	大損し。				V
五百羅漢	福島区福島五	大日記 ○	袖壁そんじ耀かん大崩れ、尤羅漢像堂外へ出たるも有。				V
五百らかん	福島区福島五	文鳳堂雜纂 ○	本堂くづる。				VI
中の天神	福島区福島三	大日記 ○	大崩し。				V
下ノ天神	福島区玉川一	大日記 ○	絵馬堂大崩し、社内西手に四五軒崩る。				V

地点名	現在の地名	文献名と 評価記号	4日	5日		7日	推定 震度
				地震被害	津波被害		
下の天神	福島区玉川一	文鳳堂雜纂 ○	あま堂崩る。				V
福島下の天神	福島区玉川一	大地震大津浪未代囃廻種	◎ 糸馬堂崩、その外少々の損じあり。				V
下福島村	福島区玉川一・二	地震海溢考					-
浦井(江)の聖天	福島区鷺洲二	世直り紳紙	○ 破壊。				V
延岡藩屋敷	福島区福島一	西区史	○ 生戸八幡宮井戸屋形并総馬堂崩れる。				V
延岡御やしき	福島区福島一	文鳳堂雜纂	○ 崩家あり。				V
のへ岡御屋敷	福島区福島一	嘉永甲寅地震雜記	○ 八まん宮総馬堂大そんし。				V
梅田橋	福島区福島一	大地震大津浪未代囃廻種	◎ 北詰西へ入裏町の家二軒崩る。				V
浄心橋 (正?)	福島区福島一	安政元寅年正月より……御写物	○ 土蔵壹ヶ所崩れ。				VI
浄正橋	福島区福島一ほか	文鳳堂雜纂	○ 土蔵崩る。				V~VI
上の天神	福島区福島二	文鳳堂雜纂	○ 表門、崩家あり。				V
福島上の天神	福島区福島二	大地震大津浪未代囃廻種	◎ 表門崩る。				V
福島天神(上?)	福島区福島二	大坂編年史廿二〇 (近來年代記五)	○ 門崩れる。				V
福島上天神	福島区福島二	大日記	○ 大崩し、裏門、鳥居たをる。				V~VI
上福島天神	福島区福島二	安政元寅年正月より……御写物	○ 門・井戸家形・土蔵崩れ。				V~VI
白杵藩屋敷	福島区福島二	御会所日記		御屋敷・御土蔵・御長屋具外堀等大破。			V
福泉寺	福島区福島二	仮題 書状集		庫裏壹式尺櫃申候。			V~VI
汐津橋	福島区福島三	大地震大津浪未代囃廻種	◎ 北詰東へ入所の風呂屋大崩れ。向の人家八軒計り大くつれに相成。				V
汐津橋	福島区福島三	安政元寅年正月より……御写物	○ 南の土蔵壹ヶ所崩れ。北の土蔵壹ヶ所崩れ。				VI
汐つばし	福島区福島三	文鳳堂雜纂	○ 土蔵崩る。				VI
汐津橋	福島区福島三	大地震大津浪未代囃廻種	◎ 南詰凡長さ十五間の土蔵惣壁落、柱ばかり残る。				V以上
福島中の天神	福島区福島三	文鳳堂雜纂	○ 崩家あり。				V
福島中の天神	福島区福島三	大地震大津浪未代囃廻種	◎ 本社残り、境内の建物のこらず倒る。				V~VI
光知(智)院	福島区福島五	大日記	○ 玄關崩れ、本堂たをれ。				VI
福島光智院	福島区福島五	大地震大津浪未代囃廻種	◎ 玄關大崩。				V
安治川橋(安治川)	福島区野田一	嘉永甲寅諸国地震記	○				-
安治川北上一	福島区野田一	地震海溢考				落ちる。	-
安治川北上一	福島区野田四	地震海溢考				崩家二ヶ所。	-
安治川北上一	福島区野田四	地震海溢考				崩家二ヶ所。	-

地点名	現在の地名	文献名と 評価記号	4日	5日	日		7日	推定 震度
					地震被害	津波被害		
曹粮崎村	北区	大日記 ○	少々損。					IV~V
梅田墓所	北区	世直り舛紙 ○	大方崩れる。					V~VI
北野別荘	北区	井上市兵衛日記○	(石灯笼)五本倒れ、正面無難。					IV~V
北野別荘	北区	井上市兵衛日記○					有震。	e
天満西寺町	北区	大地震大津浪末代囃廻種 ○	金毘羅の絵馬堂大くづれ、其外損じ数ヶ所あり。					V
天満西寺町	北区	地震海溢記 ○	金毘羅絵馬堂大崩。					V
堂嶋・中之島	北区	青窓紀四六四○	諸蔵屋敷は皆々殊之外なるアレニ御座候					V~VI
天満妙見	北区	大地震大津浪末代囃廻種 ○	絵馬堂崩る。					V
天満妙見堂	北区	地震海溢記 ○	妙見堂、絵馬堂崩。					V
天満妙見堂	北区	文鳳堂雜纂 ○	崩れ損ず。					V
堀川の夷	北区西天満五	大地震大津浪末代囃廻種 ○	境内少々のいたみ。此辺東西南北少々つづの損じあり。					IV~V
天満ほり川戎	北区西天満五	嘉永甲寅地震雜記 ○	近辺大損し。					V
舟大工町	北区西天満三・四	文鳳堂雜纂 ○	土蔵崩るゝ。					VI
桜はし	北区曹粮崎新地二	嘉永甲寅地震雜記 ○	南詰西へ入浜家式三軒くづれ、此近へん少しツゝの崩あり。					V
不動寺	北区太融寺町	大日記 ○	本堂藁二成。此近辺ゆかみをたをれ大損し。					V~VI
天満不動寺	北区太融寺町	大地震大津浪末代囃廻種 ○	不動寺大そんじ本尊變形になる。					V~VI
浦江村安楽寺	北区大淀南三	地震海溢記 ○	本堂大崩、此近辺大損シ…					VI
浦江村安楽寺	北区大淀南三	仮題 書状集 ○	本堂六間四面ニ御座候処本堂庫裏不残潰。					VI
大仁村	北区大淀北・中・南辺	地震海溢記 ○	百姓家五六軒崩。					V
大仁村セハ寺	北区大淀北・中・南	安政元寅年正月より……御写物 ○	本堂崩れ。					VI
大仁村	北区大淀北・中・南辺	大地震大津浪末代囃廻種 ○	人家凡三十けんばかり崩る。					V~VI
池田町	北区池田町	嘉永甲寅地震雜記 ○	近へん少し損じあり。					IV~V
福井藩蔵屋敷	北区中之島一	安政元寅年正月より……御写物 ○	御蔵屋敷之儀は為指儀も無御座候趣御座候得共御土蔵等大損申候由					V以上
府内様	北区中之島二	嘉永甲寅地震雜記 ○	御屋敷御殿損候。					V
平戸藩屋敷	北区中之島二	御家老日記 (国元)	御殿并御長屋・諸土蔵不一通傷、瓦礫居等も掃候様体、御長屋に寄候ハ八住居雜相成…					V
加賀藩屋敷	北区中之島二	加賀藩史料 ○	御屋敷内御小屋々々壁杯少々落ち申候得共、外別奈無御座候。					IV~V

地点名	現在の地名	文献名と 評価記号	4日	5日		7日	推定 震度
				地震被害	津波被害		
加賀藩屋敷	北区中之島二	加賀藩史料 ○		御屋敷内御小屋々々は壁杯落ち候位二面、外別家無御座候。			IV~V
秋月藩屋敷	北区中之島三	万日記 ○	中嶋御屋敷少々御破損、格別の儀無之、御蔵間々引割候由…				IV~V
筑後屋敷	北区中之島四	西区史 一 ○	米蔵崩れる。				VI
広島藩屋敷	北区中之島四	西区史 一 ○	米蔵崩れる。				VI
常あん寺町	北区中之島四・五	文鳳堂雜纂 ○	南角、崩家三軒。				V
丸かめ金ひら社	北区中之島五	文鳳堂雜纂 ○	崩家あり。				V
高松御屋敷	北区中之島五	大地震大津浪未代囃廻種	金毘羅総馬堂倒れ、その余門・塙等ごとく損じ、金毘羅長屋大さんじにて住居成がたし。				V
高松藩屋敷	北区中之島五	西区史 一 ○	金毘羅百度場・絵馬堂崩れる。				V
熊本藩屋敷	北区中之島五	江戸・京都・大阪・鶴崎・長崎通達御用状控 ○	一、御会所御間内所々木損 一、御銀蔵前家根崩落 一、御船方役所井水御門番御小屋共大破 一、表御門損 一、右御蔵後八巻落損 一、江戸堀御蔵番宅台所家根落損 一、西浜三番御蔵廻二而南手へ寄損 一、右御蔵番七雪隠家根落損 一、裏御門加番所前此家根崩落 外二御宮石灯笼倒損 右之外二御屋敷内御小屋にて損所出来申候事				V
熊本藩屋敷	北区中之島五	江戸・京都・大阪・鶴崎・長崎通達御用状控 ○	一、御会所御間内所々木損 一、御銀蔵前家根崩落 一、御船方役所井水御門番御小屋共大破 一、表御門損 一、右御蔵後八巻落損 一、江戸堀御蔵番宅台所家根落損 一、西浜三番御蔵廻二而南手へ寄損 一、右御蔵番七雪隠家根落損 一、裏御門加番所前此家根崩落 外二御宮石灯笼倒損 右之外二御屋敷内御小屋にて損所出来申候事	一、江戸堀治番御蔵北手妻落損 一、右御蔵番香御蔵鉢差落 一、鶴崎詰御小屋庇屋根落 一、御会所大損。			V
熊本藩屋敷	北区中之島五	地震ニ付諸家様御届并御飛脚申出之書附 ○	御屋敷小御別家無御座、併御会所多少倒し懸り居候二付、御役間ハ御茶屋ニ御転し二相成申候。				IV~V
天満天神	北区天神橋二	文鳳堂雜纂 ○	井戸くつるゝ。				V
天満天神	北区天神橋二	藤岡屋日記 ○	手洗所三間四方井戸屋形つぶれ。				V
天満天神	北区天神橋二	大地震大津浪未代囃廻種	井戸屋かた・土蔵大崩れ。夫より東寺町寺院門・崩崩れ損じ多し。此近辺少々つつの痛み、家倒れかけ候処あまた有之。住居ならず。				V
天満天神	北区天神橋二	大坂編年史廿二〇(近來年代記五)	井戸家形崩れる。				V
天満天神	北区天神橋二	安政元貞年正月より…御写物 ○	井戸家形崩れ。				V
天満天神	北区天神橋二	青巻紀聞六十四〇	井戸家形打砕け、小倉の備数不知。				V
天満正泉寺	北区兎我野町	井上市兵衛日記	絵馬堂倒れる。				V
堂嶋	北区堂島・堂島浜	大日記 ○	少々痛。				IV~V

安政東南海地震による大阪市内の被害詳細 (記事が4日と5日の欄にまたがっているものは、被害がどちらの日付が確定できないもの)

地点名	現在の地名	文献名と 評価記号	4日	5日		7日	推定 震度
				被害	津波被害		
小倉藩屋鋪	北区中之島六	小笠原文書 ○	西側屋外側惣休懸腰瓦震崩、裏御門半倒、役宅本玄關奉盛鋪内所々損し、北側長屋内側壁少々震崩し、鎮守社鳥居石灯籠絵馬堂震崩し、其外御屋鋪内所々破損。				V
小倉藩屋鋪	北区中之島六	小笠原文書 ○				今日迄も昼夜少々ツツ、震止不申	e
桑名藩蔵屋敷	北区堂島三	嘉永甲寅地震雜記 ○	御館内は格別の損所も無之。				IV
新地裏町	北区堂島三	大日記 ○	少々損。				IV~V
梅田橋	北区堂島三	大地震大津浪末代囀廻種 ○	東へ入所の高堀破ける				V
大村様	北区堂島三	嘉永甲寅地震雜記 ○	表通り蔵屋很少々損し申候。				IV~V
堂嶋桜橋	北区梅田一	大地震大津浪末代囀廻種 ○	南詰西へ入所人家五六軒崩る。				V
堂嶋さくら橋	北区梅田一	文鳳堂雜纂 ○	四五軒崩。				V
梅田橋北詰	北区梅田二	嘉永甲寅地震雜記 ○	西へ入うら町家式軒崩、東へ入高堀くだける、此近辺四五軒大損し。				V
北新地みどり橋	北区梅田二	大地震大津浪末代囀廻種 ○	北詰西角煮うりやより西へ四五軒大そんじ。				V
北しんちみどり橋	北区梅田二	嘉永甲寅地震雜記 ○	北つめ西角口西へ四五間はつり大そん				V
今里	淀川区十三元今里	大地震大津浪末代囀廻種 ○	人家十五軒ばかり倒れる。其余はそん多し。				V~VI
木津市中	浪速区	嘉永甲寅地震雜記 ○	あちこちそんし。				IV~V
御蔵	浪速区	大地震大津浪末代囀廻種 ○	人家四五軒倒る。				V
今宮戎の社	浪速区恵比寿西一	大地震大津浪末代囀廻種 ○	少々つゝ損じ。				IV~V
難波村	浪速区元町ほか	大地震大津浪末代囀廻種 ○	人家二十軒ばかり崩れる。いたみ家多し。				V~VI
難波鉄元(眼)寺	浪速区元町一	大地震大津浪末代囀廻種 ○	釣がねをちる。其余本堂・扉・門損じ多し。				VI
難波鉄眼寺	浪速区元町一	地震海溢記 ○	釣鐘落、台所崩、其外諸堂大損。				VI
難波鉄源寺(眼)	浪速区元町一	安政元寅年正月より……御写物 ○	釣鐘落ち、其外諸堂大損し。				VI
難波鉄眼寺	浪速区元町一	文鳳堂雜纂 ○	釣鐘落ル。				VI
木津安養寺	浪速区元町三	大日記 ○	釣鐘落ちる。				VI
安にゅう寺	浪速区元町三	嘉永甲寅地震雜記 ○	釣かね堂つれ。(安養寺?)				V~VI
木津安ふうじ	浪速区元町三	文鳳堂雜纂 ○	釣鐘落ル。(安養寺?)				VI
幸栄橋	浪速区幸町一	文鳳堂雜纂 ○	西つめ、崩家あり。				V
幸水(栄?)橋	浪速区幸町一	大地震大津浪末代囀廻種 ○	西詰南へ入所人家二三軒崩る。				V
幸栄橋	浪速区幸町一	安政元寅年正月より……御写物 ○	西詰南江入崩れ。				V

地点名	現在の地名	文献名と 評価記号	4日		5日		7日	推定 震度
			日	日	地震被害	津波被害		
幸町	浪速区幸町一	大地震大津浪未代断絶種	橋より南へ二三十軒ばかり崩る。				V~VI	
幸町	浪速区幸町一~三	嘉永甲寅地震雑記	東うらがハ襷より西詰巷丁西角家三軒計崩れ、かま□□ら場大くつれ...				V	
幸町巷丁目	浪速区幸町一	地震海溢考			崩家十八軒。		-	
幸町式丁目	浪速区幸町二	地震海溢考			崩家十七軒。		-	
幸町三丁目	浪速区幸町二	地震海溢考			崩家三軒。		-	
幸町四丁目	浪速区幸町三	地震海溢考			崩家四軒。		-	
幸町五丁目	浪速区幸町三	地震海溢考			崩家六軒。		-	
難波御蔵	浪速区難波中二	丸山利隆日記		先別桑無之由。			-	
長町びしゃ門堂	浪速区日本橋三	文鳳堂雜纂	鳥居崩るゝ。				V~VI	
長町毘沙門	浪速区日本橋三	嘉永甲寅地震雑記	大鳥居崩。此近へんあちこち大そんし。				V~VI	
長町毘沙門	浪速区日本橋三	大地震大津浪未代断絶種	大鳥居倒れる。				V~VI	
御蔵跡	浪速区日本橋三砂	文鳳堂雜纂	土蔵崩るゝ。				VI	
御蔵跡	浪速区日本橋三砂	安政元元年正月より...御写物	家四五軒損。				V	
広田の社	浪速区日本橋西二	大地震大津浪未代断絶種	少々づゝ損じ。				IV~V	
木津大黒の社	浪速区数津西一	大地震大津浪未代断絶種	破損少々あれ共(中略)無難、人家十二三軒倒る。				V~VI	
西淵(御?)町	浪速区木津川一	地震海溢考			崩家三軒。		-	
漆町	浪速区湊町一	地震海溢考			崩家六軒。		-	
幸町東住(??)	浪速区湊町一	文鳳堂雜纂	南へ入三軒崩。				V	
舟(船?)場上町	(東横堀以東)	安政元寅書状写	庭先石灯笼折し申位二而強ク無御座...				V	
あわざ藪の横町		文鳳堂雜纂	六軒崩。				V	
かこや町両ごく橋		文鳳堂雜纂	十六軒崩。				V~VI	
安治川(湍船中)		続地震雑纂(上)	△			只今も少々地震御座候	e	
安治川どぐろ		大地震大津浪未代断絶種	近辺大損じ。				V	
安治川順正寺		大地震大津浪未代断絶種	本堂大損し、茶の間倒るゝ。				V~VI	
安治川順正寺		仮題 書状集		本堂潰申候。			VI	
安治川順正寺		安政元寅年正月より...御写物	茶之間・本堂大損し、三丁目棚(?)式三軒計崩れ。				V	
大仁村順正寺		文鳳堂雜纂	本堂くづる。				VI	
安治川通		地震海溢記	大崩。				V	

安政東南海地震による大阪市内の被害詳細

(記事が4日と5日の欄にまたがっているものは、被害がどちらの日付か確定できないもの)

18/20

地点名	現在の地名	文献名と評価記号	4日	5日		7日	推定震度
				日	地震被害		
井上市兵衛宅		井上市兵衛日記○	壁縫破れ其外石灯籠北庭四方仏、南庭利休形無縫其外悉倒レ口居石灯籠織部形之外皆倒。				V
解船町		嘉永甲寅地震雜記○	西権堀少し南家大ゆかみ。				IV~V
観音堂		藤岡屋日記○	潰れ。				V~VI
袴屋(木綿問屋)		大地震実録○	店一統聊別条無御座、少々つつの破損而已ニ而相連れ…				IV~V
高津南御堂		文原堂雜纂○	崩家あり。				V
三ツ嶋村		文原堂雜纂○	崩家あり。				V
山本屋		続地震雜纂(下)△				今日とても地震相止不申。	e
山本屋		続地震雜纂(上)△				画三度つ、然ども少々之事。	e
山本屋		続地震雜纂(上)△	昨日よりの地震にて、町々に少し傾き申候所、古家などは潰れ申候所も邂逅には御座候由、併倒れ申候家は数は無御座候。宿元などは(中略)強く相震ひ申候而も建具立附等、少しもくくるひ不申候。寺社に而も古き方、少々損じ申候。評判仕候程之儀は無御座候。				IV~V
市中		安政元萬年正月より……御写物○	大坂震動之内にも少々ツッ甲之有之、此度八郡而未申の方より震出し候様に相覚え、西辺より船場へかけ至而散敷、次ニ堂嶋より天満江かけ少シかるき方ニ而上町辺、御城近辺ハ又々少シかるき方ニ承り申候。				-
市中		大坂編年史廿二〇(波連之震事)	十一月四日・五日大地震ニ付、大坂三郷町中井ニ大破損家・土蔵・納屋等、御公儀様江書上之写三郷中にて崩家崩土蔵崩大破損崩納屋尚此外在領二崩・大破損家夥敷候	五日洪水による被害落橋拾七橋安治川橋・國津橋・亀井橋・高橋・金屋橋・水分橋・鉄橋・日吉橋・汐見橋・幸橋・住吉橋大損外二瓶(亀)橋			-
市中		大坂編年史廿二〇(鍾奇齋日々雜記)	十一月四日・五日大地震ニ付、破損所取調之分外二町敷合目印山之内薩摩堀濃家合同土蔵同納屋大破損家合同土蔵濃井戸家形同結露堂	五日高沙ニ付御書上落橋損家大破家同納屋(これは三郷の数字のみで、在領は入っていない)			-

地点名	現在の地名	文献名と 評価記号	4日	5日	日		7日	推定 震度
					被害	津波被害		
市内		嘉永七年甲寅大阪 再度地震之記 ○					朝四ツ時頃 震ふ、しか しきひしか らす	e
市内		大坂編年史廿二〇 (鍾奇斎日々雜記 日記録 ○)					五ツ時一版 震す 昨夜中より 折々小地震	e
松代藩御用場		虫倉後記 ○	御用場は無難ニ御座候得共所々破損有之、御 用場近辺ニも潰家沢山、其外菱形と相成或は 屋根瓦ずり下り等にて住居難成家々沢山有之					e
松代藩御用場		虫倉後記 ○		日の入比又々大地震ニて、昨朝潰れ懸りの家 々又々潰候も有之。				V~VI
上本町御はらい筋		大地震大津浪未代斷種 ○	近辺少々づづの損じあまたあり。					IV~V
新中嶋		安政元寅年正月よ り……御写物 ○	大損し。					V
新町井戸の辻		大地震大津浪未代斷種 ○	南東角大崩れ、夫より少し東の寺大ゆがみ。					V
新町辺より土はし		嘉永甲寅地震雜記 ○	近辺あちこち損しあり。					IV~V
西寺町金比羅		大日記 ○	絵馬堂大崩れ。					V
西呂島		藤岡屋日記 ○	土蔵五六軒潰。					VI
川口御番所		安政元寅年正月よ り……御写物 ○	余程損し候由。					V
大坂店		藤野家日記 ○	所々損し申候					IV~V
大坂店		藤野家日記 ○		店表中庭近程境界崩れ申候。				V
大坂店		嘉永七年十一月四 日地震ノ記 ○	此店之儀は庭先灯籠倒、土蔵先達修復仕置候 処、又々当夏之通り相痛申候、其外恙而損し 候所も無之……					V
中寺町当麻寺	中央区中寺一~二	大地震大津浪未代斷種 ○	掛所の門大そんじ。					V
中寺町当麻寺	中央区中寺一~二	地震海溢記 ○	掛所門崩。隣の寺は本堂大損。					V
当麻寺	中央区中寺一~二	文鳳堂雜記 ○	門崩るゝ。					V
中寺町当麻寺	中央区中寺一~二	安政元寅年正月よ り……御写物 ○	掛所門損。					V
当麻寺の隣寺	中央区中寺一~二	安政元寅年正月よ り……御写物 ○	本堂損。					V

安政東南海地震による大阪市内の被害詳細

(記事が4日と5日の欄にまたがっているものは、被害がどちらの日付が確定できないもの)

20/20

地点名	現在の地名	文献名と 評価記号	4日	5日	7日	推定 震度
中西		大阪府西成郡史○	井上弥兵衛宅の西納屋崩れ、酒蔵西へ倒れ、西の壁落ちる。			VI
長ほり御堂辻		文鳳堂雑纂 ○	襲六軒崩。			V
田村		大阪府西成郡史○	新蔵西の壁、又新蔵一ヶ所崩る。			V~VI
南安治川		加賀藩史料 ○	新辰巳屋蔵西側之内三番蔵・四番蔵余程傾。御借蔵之内御蔵少々死塌崩居候箇所も御座候。			V~VI
南嶋		嘉永甲寅地震雜記 ○	うらかハ少しそんし。			IV~V
土井一即宅		地震海溢記 ○	初震にて敵方(??)表門崩申候、隣家ニモ余壞(??)屋沢山に御座候。			V
土井一即宅		地震海溢記 ○		敵方薬園の庭先三間間口四間行ヲ崩申候、其外ハ別家無御座候。		V
土井一即宅		地震海溢記 ○			四ツ時少々有之候。	e
日吉橋・汐見橋・幸橋・住吉橋・金屋橋・水分橋・黒金橋・高橋・亀井橋・安治川橋		青窓紀聞六十五○			橋々落候ヶ所左之通昨日見受候所は右之通不殘落、橋杭ハ勿論石段迄も崩し、洪御の人家・土蔵等皆々般之先に引かけ逆登り、大黒橋の下ニ相集り御座候	-
法山寺		仮題 書状集 ○	表門倒。			V~VI
北安治川		加賀藩史料 ○	西天満屋蔵西側之内九番蔵、屋根端口瓦少々落ち、入口庇落居申候、御借蔵之内御蔵少々死塌崩居候箇所も御座候。			V
野中町		安政元貞年正月より……御与物 ○	拾軒計崩れ。			V

表 3 安政東南海地震による大阪市内の被害詳細 11月4・5日の震度の比較

1/2

資料名	ページ	被害整理表	文献名と評価	4日の記事	震度の比較	5日の記事
増訂	116	A - 29	続地震雑纂	当地地震	=	夕七ツ半頃又候前日の通大地震、
〃	279	A - 149	世直り艸紙	朝辰半刻大地震ゆり出し凡半時におよぶ。誠に甚だしき事言語に絶す	<	申の下一刻ゆり出す事四日よりも甚敷、
新収	25	B - 11	安政元寅年正月より……御写物	朝五半時頃不存寄大震動(中略)此度は始めゆるゆる尻張ニ而長く震候	<	夕七時頃、前日に増り(??)候震動、是も尻張りニ長く手強く震ひ、
〃	49	B - 23	青窓紀聞六十四	五ツ時大地震	=	申中刻四日同様の地震巖敷
〃	60	B - 28	〃	五時之地震存外成御事ニ而、半時計震しが、	=	七時之地震、前日朝同様ニ而きびしくゆり立、半時余ゆり申候
〃	131	B - 58	藤岡屋日記	当所大地震の荒増申上候後、	<	夕七つ時過猶又大地震有之
〃	170	B - 76	安政甲寅諸家居書	朝五時過地震	=	夕七ツ時過又候右之位之地震引続キ、
〃	200	B - 89	嘉永甲寅地震雜記	辰中刻大地震ニ而、	=	申中刻震動、四日と同様烈敷、矢張長く震候
〃	282	B - 136	嘉永雜記	辰の中刻大地震(中略)小半時程もゆり申候	<	夕七半時頃又候昨日より強ゆり、此度は暫時に候へとも、
〃	282	B - 136	〃	御本丸四方之御櫓并御土居震動いたし、白壁何れもひゞわれ、石垣等も所々損シ、御本丸内銀水之屋根柱等も倒れ、御城代御構内口口之御門と申御門・屋根十間余も損シ…(V)	=	御城内一番之雲切と申候二重の波(破)風雨落……御本丸・御多門等大損シ場所金水銀水崩れ落、御城代前之井戸崩れ、大御番所かた向候よし…(V)
〃	282	B - 137	〃	辰刻過小半時計震居、	<	夕七ツ時過頃大地震、昨日よりも少しみじかく候申候、乍去四日より強寛申候、暮六ツ時過大震、又五ツ時頃大震
〃	316	B - 158	嘉永七寅年地震記	朝五時過大地震ゆり出し、	<	夕七時過俄ニ地震はじまり、前日よりは殊の外強く、
〃	328	B - 166	大日本国大地震記	朝五ツ時大地震ゆり出し、	=	七ツ時に前日同様の地震ゆり、夫より止事なく震、夜五ツ時ニ大地震ゆり都合三度の大地震
〃	576	B - 424	加賀藩史料	御屋敷内御小屋々々壁杯少々落ち申候得共、外別条無御座候。(IV~V)	=	御屋敷内御小屋々々は壁杯落ち候位ニ而、外別条無御座候。(IV~V)

安政東南海地震による大阪市内の被害詳細 11月4・5日の震度の比較

2/2

中 録 名	ペ ジ ン グ	被害整理 表ページ	文 献 名 と 評 価 記 号	4 日 の 記 事	震度の 比 較	5 日 の 記 事
新収	1495	D - 59	大阪編年史 (鍾奇齋 日々雑記) ○	五ツ半比大地震 (中略) 殊に長く、	<	夕七つ半比 (中略) 四日朝と同様、又長く尻張 して別而甚敷
補遺	580	H - 153	御家老日記 (国元) ○	四時頃大地震其後少々宛不絶震動	=	夕七半頃同様震動
続補	436	I - 24	片葉録記 ○	朝五ツ過時地震	<	申刻許已前よりは少々強く

表 4 安政東南海地震による大阪市内の被害詳細 全般的な記述・他の地震との比較など

史料名	ページ	被害整理 表ページ	文献名と 評価記号	記 事	(網掛けは、今回の地震についての一般的記述。その他は伊賀上野地震との比較)
増訂	115	A - 29	続地震雜纂 △	四日四ツ頃、存外之大地震、私儀、北御堂辺歩行仕居候所、暫時之間は往来出来兼候位、当夏之地震よりは震ひ様子は穏に候得共、凡半時許之間、休みなしに震ひ申候。当地人之咄に、当夏よりは大分強き方と申候	
〃	117	A - 30	続地震雜纂 △	四日辰下刻大地震ニ而、当六月よりは大分手強く相震ひ、	
新取	25	B - 11	安政元萬年正月より……御写物 ○	朝五半時頃不存寄大地震、六月之度よりハ一際烈敷相覚尤夏之節ハ始メ敷敷次第二細り候様覚申候へ共、此度は始メゆるゆる尻張ニ至而長く震候	
〃	26	B - 12	安政元萬年正月より……御写物 ○	大坂震動之内にも少々ツ、甲乙有之、此度ハ都而末申ノ方より震り出し候様に相覚、西辺より船場へかけ至而敷敷、次ニ堂嶋より天満江かけ少シなるき方ニ節、上町辺・御城辺ハ又々少シなるき方ニ承り申候	
〃	133	B - 59	藤岡屋日記 ○	四日朝五ツ時頃大坂大地震有之、尚六月十四日の地震と(妙?)は敷敷永く震動仕候	
〃	147	B - 66	地震海溢記 ○	四日朝五ツ半比大地震、夏ヨリ三・四増倍甚シク、	
〃	147	B - 66	〃 ○	(五日)地震は六月ヨリ大キク候由、灯笼ナトコケ申位マテニ御座候	
〃	148	B - 67	〃 ○	川西ノ内西堀ヨリ西北ノ分大破ニテ、船場次之、上町ハ大分静ニ御座候	
〃	149	B - 67	〃 ○	四日存外ノ大地震、当地は六月ノ時ヨリ長ク、	
〃	188	B - 84	嘉永甲寅地震雜記 ○	四日四ツ時頃当境大分強キ地震有之(中略)震ハ夏中程ニハ無之よしニ候へとも、余程長く御座候	
〃	226	B - 101	嘉永七年十一月四日地震ノ記 ○	五ツ半時頃亦々大地震有之、半時計鳴動、皆々大道江通出イ居事難出来程之儀、当夏より一段敷敷相覚申候	
〃	283	B - 137	嘉永雜記 ○	上町近辺薄震、西横堀西ハ別而強震候よし	
〃	1444	D - 8	速見家日記 ○	四日五ツ過時大地震ニ而夏よク余程長クノ故大ニ心配仕、	
〃	1495	D - 59	大阪編年史廿二〇(鍾奇齋日々雜記)	(四日)朝五ツ半比大地震、去夏六月の地震より三増倍甚敷、殊に長く、	
〃	1498	D - 59	大阪編年史廿二〇(永代録四ノ下)	四日朝五ツ半時、当夏之地震よりも亦増ニ不軽大地震有之、諸人致恐怖、市中石灯笼は勿論、此度は建家・土蔵・堂・宮井石鳥井杯も打倒れ、	
〃	1501	D - 62	大阪編年史廿二〇(任友家)	四日・五日又大地震アリ 此地震ハ、前六月ノ時ニ比スレバ、一層激烈ニシテ、殊ニ五日朝ノ大震ハ雷ノ如キ響キアリ、	
〃	1517	D - 75	嘉永七年甲寅大阪再度地震之記 ○	(四日)朝五ツ半時大地震、此度ハ夏の時より余程強覺ゆ	
続補	429	I - 20	片葉雜記 ○	大坂も此六月中の地震より強くして…	

表5 史料の信頼性（地震記事に関する）評価基準表

評価	内 容
----	-----

評価1. 著者・史料の種類

- 朝廷・国府・幕府・藩及びその出先の日記・早期の記録
- 公家・上級武士・学者の日記・早期の記録
- 名主・庄屋等地元有力者の御用留・公私の日記・早期の記録
- 寺社の日記・過去帳・早期の記録
- 史料集（原文を集成したもの）
- 朝廷・国府・幕府・藩が公的に編纂した歴史書・地誌
- 地方公共団体が刊行した地方史誌で一般的に妥当と考えられるもの（同上）
- △ その他の地方史誌（頁数の少ないものが該当することが多い）
- 名主・庄屋等地元有力者の家記・旧記・年代記等
- 私的に編纂した歴史書・地誌で国史大辞典等で評価の高いもの
- △ 私的に編纂した歴史書・地誌でその他のもの
- 研究者の発表した科学論文で著者の評価が高いもの
- △ 研究者の発表した科学論文でその他のもの
- △ 宗教書
- × 創作物（物語・芝居台本・歌曲等）

（一次史料）
（以下、二次史料）
（官選史誌）
もの（同上）
（地元史料）
（私選史誌）
（同上）
（科学論文）
（同上）

評価2. 記載の時期・（成立年）

- 日々記入
- 事件ごとに記入・記事のあるたびに記入
- 後世の編纂（地震後30年位までに編纂）
- △ 後世の編纂（地震後30年を超えて編纂）
- △ 後世の編纂（不明）

評価3. 記事の種類と内容（日記等で本震の記事が無くても判定には関係ない）

日記・一次記録（地震後早期の編纂物）の場合

- 体験
- 近所の状況
- 文書による出先からの報告
- △ 伝聞（信頼性の高いものは○）
- △ 噂（信頼性の高いものは○）
- × 内容に誇張や公正を欠く記述のあるもの
- × 創作による記事と推定されるもの

後世の編纂で出典明記あるいは明記してなくても内容から出典が推定できる場合
その出典により次のように判定する。ただし、極めて簡略化されたものは△とする。

* 出典の評価1. による評価結果に従ってこの史料の評価をする。

後世の編纂で出典不明あるいは独自に執筆している場合

- その史料が一般に信頼性の評価されている記録・通史・地誌等である場合
- 記事の文体・被害数等が信頼性のある史料からの引用と推定できるもの
- △ " " " " " " と推定できないもの
- 地震後150年程度の間で作成された地誌・年代記で、出典はなくても内容が具体的で科学的に妥当と考えられるもの
- × 内容に誇張や公正を欠く記述のあるもの
- × 創作による記事と推定されるもの

総合評価

(1) 「評価3. 記事の種類と内容」では、それより前の評価1. 評価2. も加味しているため、殆どの場合に「総合評価」は評価3. の結果と同一になる。

(2) しかし、例えば、史料の種類が創作物であるが、引用されたものが公家の日記である場合などは、その都度判断することになる。

注：私選史誌・科学論文の評価結果は時により変化しないようにする。

以上

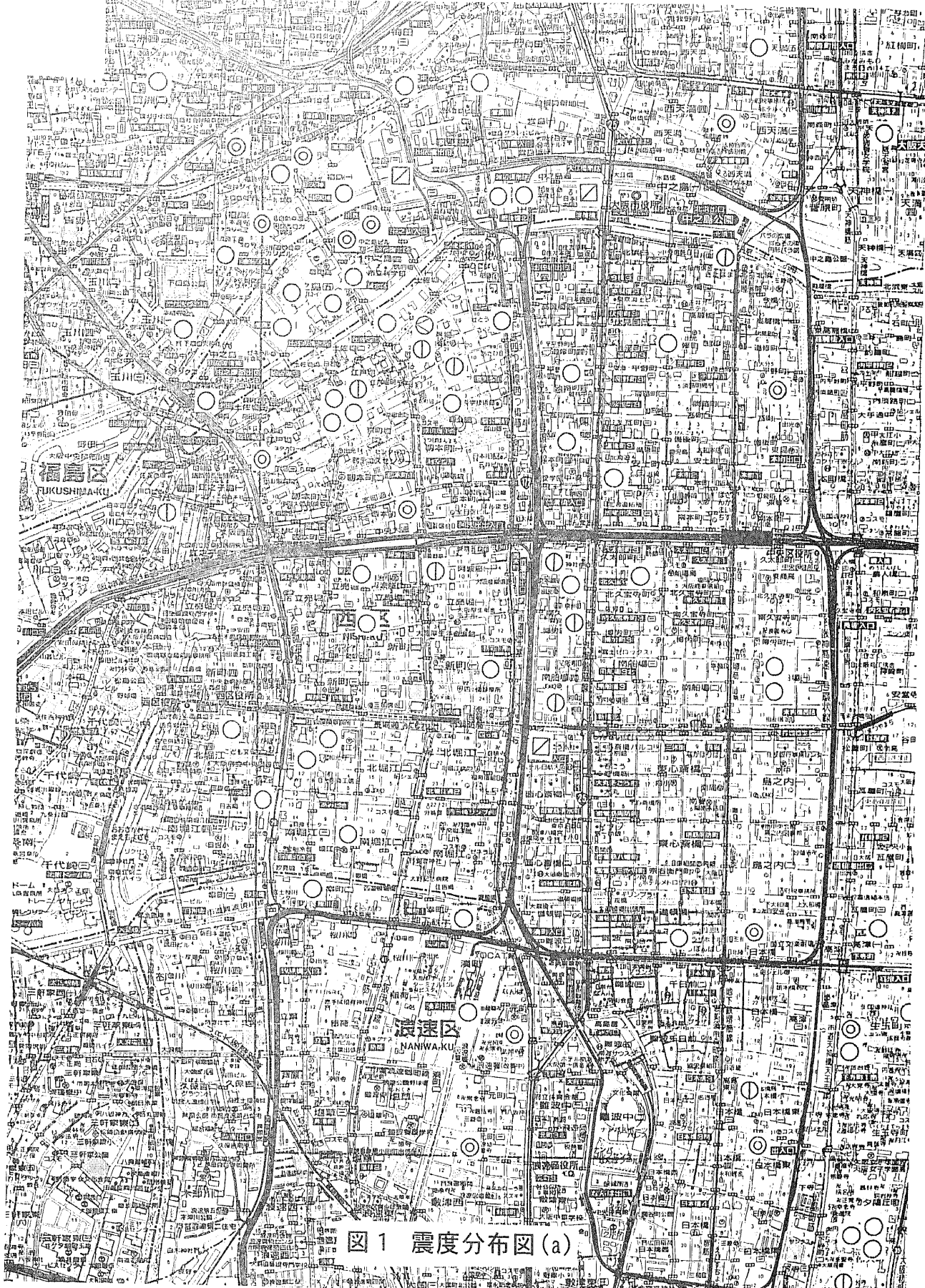


图 1 震度分布图(a)

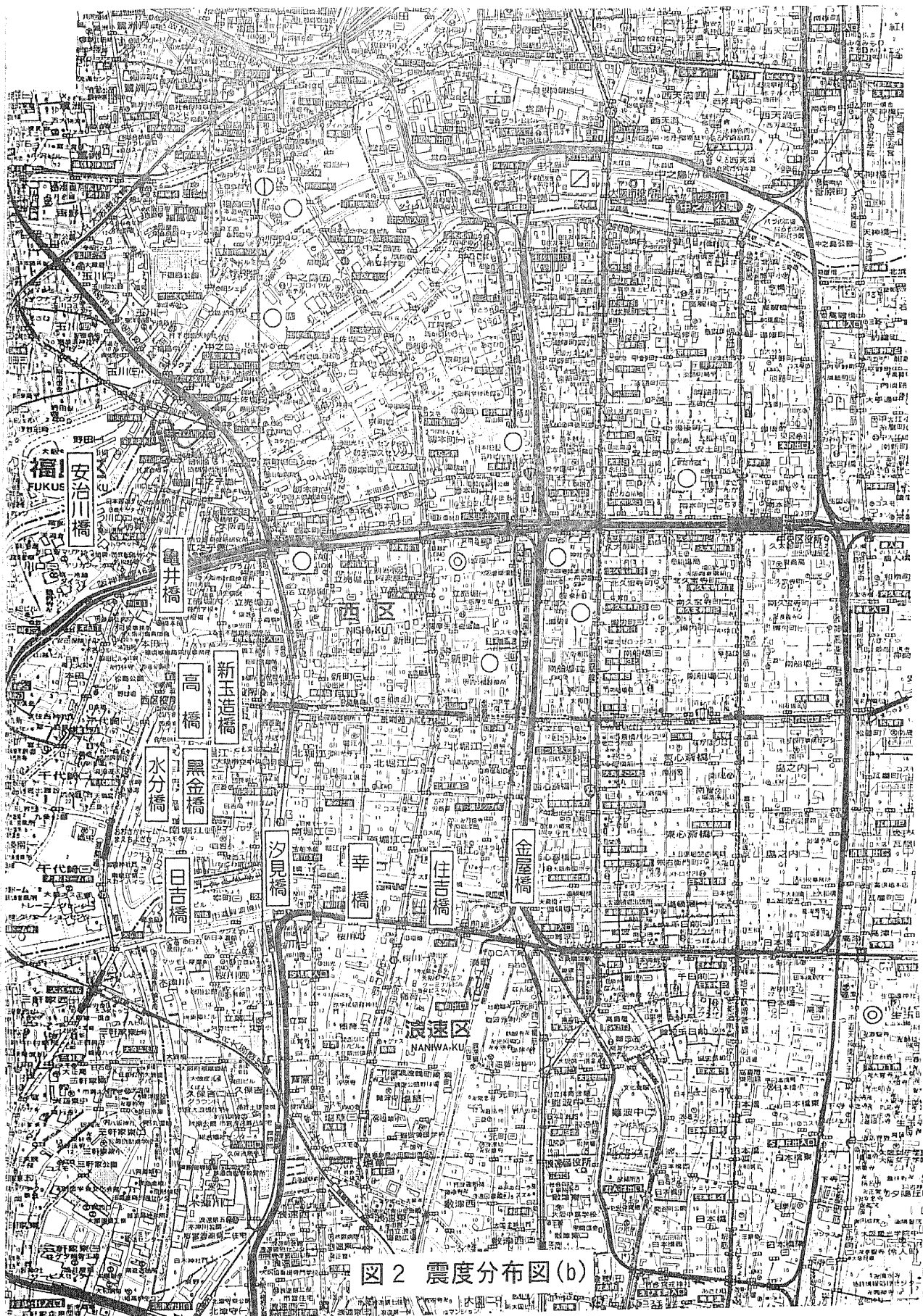


図2 震度分布図(b)

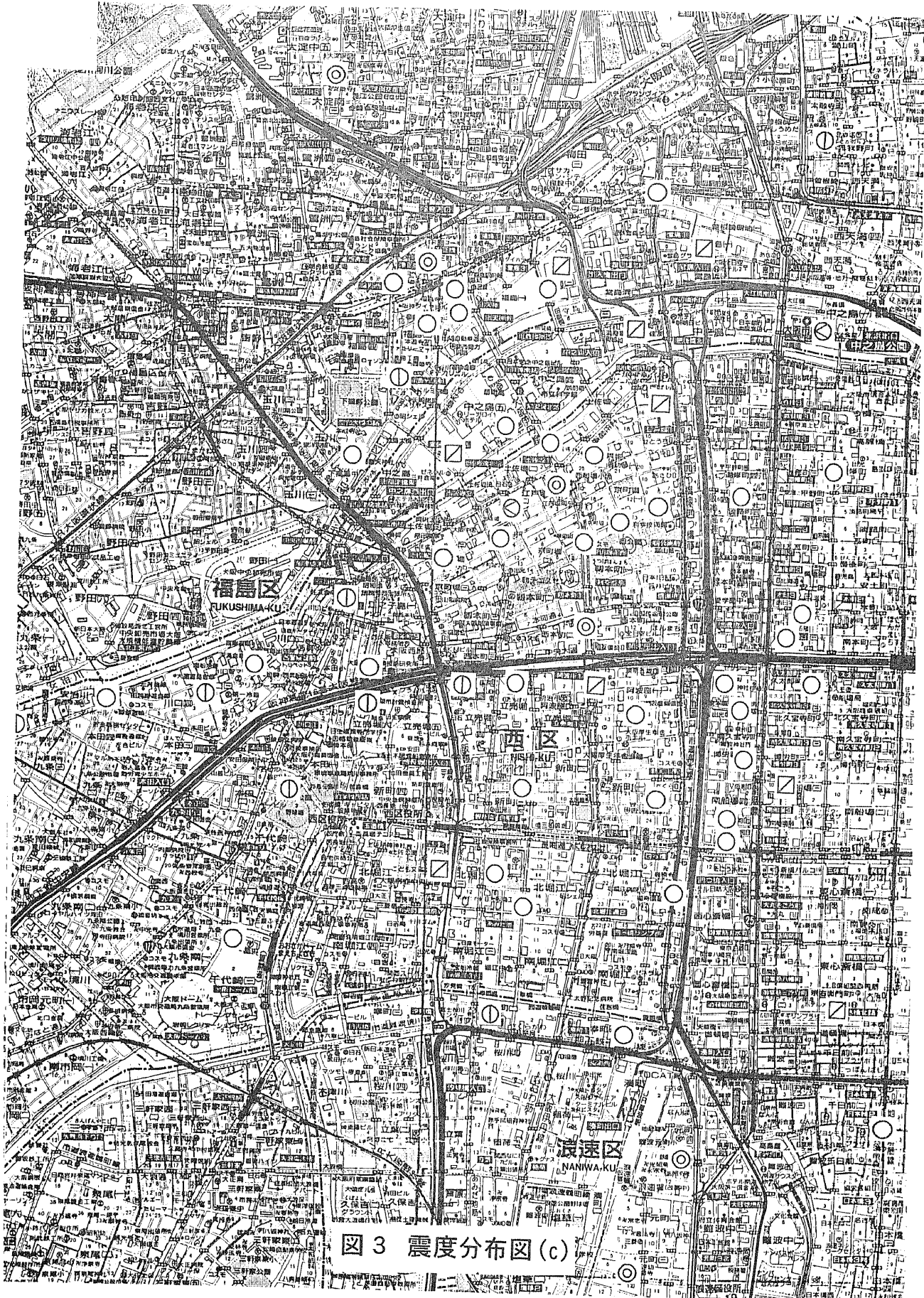


图3 震度分布图(c)